

## [10] 九州大学農学部農場研究資料表紙総括等

<https://hdl.handle.net/2324/12565>

---

出版情報：九州大学農学部農場研究資料. 10, 1988-03. 九州大学農学部附属農場  
バージョン：  
権利関係：

## 昨年度事業の総括

# 昭和61年度農畜産物生産実績

品目	作物	機械	果樹	施設園芸	畜産	研究部長
玄米	292俵 + 550kg				2俵	
小麦	48俵	1,080kg				
ジャガイモ	1,040kg					
ダイズ	225kg					
アズキ	128kg					
黒豆	39kg					
早生温州			13,013kg			
巨峰			634kg			
マスカットベリーA			1,774kg			
ウメ			228kg			
ナシ			92.5kg			
リンゴ			87kg			
キュウリ				4,809kg		
メロン				1,457個		
セルリー				2,990kg		
サツマイモ				82kg		
シクラメン				684鉢		
鉢物				470鉢		
函詰牛乳					57,076函	
乳酸飲料					2,728函	
バター					130個	
卵					148kg	
肉用牛					7頭	
廃牛					1頭	
山羊					2頭	
カボチャ						243個
ダイコン						1,493本

# 昭和 61 年度 農畜産物 収入実績

単位：千円

品 目	作 物	機 械	果 樹	施設園芸	畜 産	研究部長	計
玄 米	5,195			34			5,229
小 麦	530	199					729
ジャガイモ	79						79
ダイズ	75						75
アズキ	64						64
黒 豆	24						24
早生温州			1,064				1,064
巨 峰			374				374
マスカットベリーA			437				437
ウ メ			84				84
ナ シ			15				15
リ ン ゴ			14				14
キュウリ				531			531
メ ロ ン				974			974
セルリー				385			385
サツマイモ				6			6
シクラメン				367			367
鉢 物				206			206
函 詰 牛 乳					10,844		10,844
乳 酸 飲 料					464		464
バ タ ー					31		31
卵					16		16
肉 用 牛					3,112		3,112
廃 牛					242		242
山 羊					16		16
カボチャ						27	27
ダイコン						42	42
計	5,967	199	1,988	2,503	14,725	69	25,451

## 昭和61年度学内公費移算実績（施設園芸）

単位；千円

大きさ	貸 鉢			計
	大 鉢	中 鉢	小 鉢	
数 量	216	828	996	2,040
金 額	324	828	498	1,650

## 昭和 61 年度 経 営 支 出 実 績

単位；千円

費 目	作 物	機 械	果 樹	施設園芸	畜 産	計
種 苗 費	8	15	—	449	304	776
肥 料 費	39	72	153	118	999	1,381
農 業 薬 剤 費	223	191	489	223	—	1,126
光 熱 動 力 費	192	241	421	216	603	1,673
そ の 他 の 諸 材 料 費	773	105	416	921	1,785	4,000
水 利 費	—	—	—	—	—	—
賃 借 料 及 び 料 費	—	—	5	73	—	78
飼 料 費	—	—	—	—	2,523	2,523
獣 医 師 料 及 び 医 薬 品	—	—	—	—	112	112
建 物 及 び 土 地 改 良	94	15	—	—	—	109
農 機 具 費	1,159	774	219	358	749	3,259
雇 用 費	—	—	2,097	1,603	—	3,700
そ の 他 費	491	67	—	268	1,623	2,449
計	2,979	1,480	3,800	4,229	8,698	21,186

# 作物研究室

## 1. 昨年度の収支実績

第1表 収 入 実 績			第2表 支 出 実 績	
費 目	生 産 量	生産額 (千円)	費 目	金額 (千円)
玄米 (政府米)	280 (俵)	5,025	種 苗 費	8
(混合米)	12 (俵)	134	肥 料 費	39
(くず米)	550 (kg)	36	農 薬 費	223
小 麦	48 (俵)	530	燃 料 費	192
ジャガイモ (春作)	740 (kg)	68	農 機 具 費	1159
(秋作)	300 (kg)	11	諸 材 料 費	773
ダ イ ズ	225 (kg)	75	工 事 費	94
ア ズ キ	128 (kg)	64	そ の 他 費	491
黒 豆	39 (kg)	24		
計		5,967	計	2,979

## 2. 生産概況

- (1) 水稻；移植後の長雨・低温・日照不足により、アソミノリをはじめ早生品種はやや不良となった。一方、レイハウ等、晩生系統は、品質はまずまずで、やや良となった。全体として、朽枯細菌病や紋枯病の発生が目立ち、今後、品種の更新をはじめ、防除法の確立が緊急の課題である。さらに、表区水田では、ホルタイの進入があり、早急な防除を施す必要がある。また、圃場近辺の宅地化に伴い、鳥獣害（特にハト、スズメの食害）が増大し、この点に対する対策も急務である。
- (2) 小麦；前年の播種遅れと、その後の低温による初期生育の不良のため、著しい減収となった。水稻作との関係から、早生品種の導入と、早期播種を検討する。
- (3) 豆類；大豆は、播種期の長雨により播種が大幅に遅れ、かつ、播種後の高温・多湿により発芽不良となったのに加え、ハトによる食害が甚だしく、著しい不作となった。これに対し、小豆・黒豆は、出芽後多少の虫害は認めしたが、防除の徹底と生育・登熟期の好天に恵まれ、平年作をやや上回った。
- (4) ジャガイモ；春作は生育良好で、豊作。秋作は病害虫多発のため減収。

### 3. 直 接 費

- (1) モミスリ機，ディプフリーザー等を更新，導入した。
- (2) 作業用農機器の老朽化による修理費が大幅に増加した。加えて，更新を必要とする器具が多く，農機具，諸材料費の増加が目立った。

# 機 械 研 究 室

## 1. 昨年度の収支実績

### 1) 収 入

第1表 収 入 実 績

品 目	生産量 (kg)	生産額 (千円)
コ ム ギ	1,080	199

### 2) 支 出

第2表 支 出 実 績

費 目	金額 (千円)
種 苗 費	15
肥 料 費	72
農 業 薬 剤 費	191
光 熱 動 力 費	241
建物及び土地改良設備費	15
農 機 具 費	774
その他の諸材料費	105
そ の 他	67
計	1,480

農機具費のうち、トラクタの車検・保険料が25万円を占める。

## 2. 生 産 概 況

### 1) コムギ

平年作であった。収穫期に他作業との競合を避けるため、品種を農林61号からチクソコムギに更新した(61年11月)。

### 2) ダイズ、ソルゴー

湿害でダイズが出芽不良のため、ソルゴーを作付け、青刈りすき込みとした。

### 3) クワ

早魃が一部みられたが、概ね生育良好で、家蚕遺伝子実験施設に十分な葉量を供給した。



### 3. 作業実績

1) 機械受託作業, 援助作業, 機械貸出の実績

第3表 機械受託作業実績

作業名	研究室					計	比率(%)
	作物	畜産	施設園芸	部長	事務部		
耕起	5.34	41.33				46.67	21.74
耕耘	39.18	37.13	0.17	5.99		82.47	38.41
整地	3.58		0.50		2.08	6.16	2.87
作条・覆土・鎮圧	2.00	11.25				13.25	6.17
中耕・除草・培土	0.67	3.67				4.34	2.02
代掻	18.49					18.49	8.61
牽引運搬	2.00		0.50	3.00	1.00	6.50	3.03
作溝		1.25		3.50		4.75	2.21
草刈	1.00				6.17	7.17	3.34
薬剤散布				2.00		2.00	0.93
心土破碎	1.34	2.00		0.66		4.00	1.86
水路道路整備	3.00		1.50			4.50	2.09
掘削	2.67		1.00	2.50	5.08	11.25	5.24
その他	0.67	1.50			1.00	3.17	1.48
計	79.94	98.13	3.67	17.65	15.33	214.72	100
比率(%)	37.23	45.70	1.71	8.22	7.14	100	

単位; 人・時間

第4表 援助作業実績

作業名	研究室					計	比率(%)
	作物	畜産	施設園芸	部長	事務部		
田植	3.00					3.00	3.80
収穫	34.00			8.00		42.00	53.17
選別・調製	3.00					3.00	3.80
供出・運搬	3.00	4.00				7.00	8.86
解体・処理	3.00		1.50		8.00	12.50	15.82
作溝				5.50		5.50	6.96
整備・点検		2.00				2.00	2.53
灌水					2.50	2.50	3.16
その他				1.50		1.50	1.90
計	46.00	6.00	1.50	15.00	10.50	79.00	100
比率(%)	58.23	7.59	1.90	18.99	13.29	100	

単位; 人・時間

第5表 機械貸出実績

機 械 名	研 究 室						計	比率(%)
	作物	畜産	果樹	施設園芸	部長	事務部		
トラクタ	54.84	81.25		17.17			153.26	59.96
耕耘機	4.00	0.67					4.67	1.83
モア	10.17		4.00	11.00		10.00	35.17	13.76
動力噴霧機	3.00	2.17		25.83	3.00	5.00	39.00	15.26
バックホー	7.00	16.50					23.50	9.19
計	79.01	100.59	4.00	54.00	3.00	15.00	255.60	100
比率(%)	30.91	39.35	1.57	21.13	1.17	5.87	100	

単位；時間

## 2) 考 察

- (1) 機械受託作業；215人・時間。対前年度40人・時間，16%減。作業別比率は例年通り耕耘（かくはん耕）が最も大きく，全受託作業の38%に及んだ。研究室別では，畜産研究室，作物研究室，部長，事務部の順で46%，37%，8%，7%であった。
- (2) 援助作業；79人・時間。対前年度57人・時間，42%減。漸く3年前の水準まで低下した。
- (3) 機械貸出；256時間。対前年度29時間，10%減。貸出機械別では，大型トラクタの比率がより大きくなった。

## 4. 主要購入機器

- (1) リバーシブルプラウ      スガノ TROS 1721EC
- (2) オフセットプラウ      スガノ COS 1523
- (3) パラプラウ              ハワード 500シリーズ2レグ
- (4) パワーハロー            小橋 KE 250
- (5) アッパーロータ        松山 BU-1800
- (6) パディハロー            小橋 H 281
- (7) パラソイラー          松山 LS-160
- (8) エアーインジェクター   小橋 KTB 100
- (9) 溝掘機                  松山 OM-310G
- (10) リードスプレー        有光 LS 60AMDI-2

(11) マニユアスプレッダ	高北 DH1600
(12) 水田プラウ	スガノ POY 1042 10*4
(13) 3方ダンプトレーラ	デリカ DK-10D3
(14) 平枠トレーラ	デリカ DT-1200
(15) ティラ	三菱 MS-710
(16) 動力噴霧器	丸山 MS303
(17) 温水洗浄機	鶴見 HPJ-15HC
(18) CO <sub>2</sub> 溶接機	ナショナル YM-356KEC

## 5. トラクタ類の稼働実績

機械研究室の主要トラクタ5台とバックホー1台について月別稼働実績を第6表(次頁)に示す。表中の数字はアワメータによる使用時間である。例年のように6月の稼働時間が突出している。

## 6. その他

### 1) 犁耕会

ティラと和犁による犁耕技術の伝承と研鑽を目的として、農業機械学講座と共同で第6回犁耕会を公開して実施した。

### 2) 耕耘用作業機実演検討会

新しい耕耘用作業機を主な対象として、連続4回の実演検討会を開催した。

第6表 機械研究室保有のトラクタ、バックホーの稼働時間（アワメータ）

機種	1986年												1987年			年度 合計	月平均
	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
FE35X	2.0	7.6	9.4	4.6*	4.5	4.5	0.7*	0.9	4.0	1.6	0.3	0.4	40.5	3.37			
MF135	1.2	10.6	16.3	2.8	3.1	7.3	4.8	9.1	8.1*	2.5	0.5	2.5	68.8	5.73			
SD4000	5.1	15.2	24.0	4.5	11.0	10.1	1.6	7.1	3.3	1.1*	0	2.0	85.0	7.08			
SE7340T	12.9	17.1*	19.8	7.6	11.4	12.8*	5.0	10.9	2.6	1.0	1.1	4.3	106.5	8.87			
TL1900	11.1	22.3*	44.7	25.2	12.4	22.8	0.8	11.4	7.0	5.0	1.2	5.0	168.9	14.07			
10HT	14.0	5.4	9.7	6.7	6.6	6.2	3.5	1.5	0.2	5.3	0	4.0	63.1	5.25			
計	46.3	78.2	123.9	51.4	49.0	63.7	16.4	40.9	25.2	16.5	3.1	18.2	532.8				
平均	7.72	13.03	20.65	8.57	8.17	10.62	2.73	6.82	4.20	2.75	0.52	3.03					

注) FE35X; マッセイファーガソントラクタFE35X (45.5 PS), 1964年10月購入,  
 MF135; " MF135 (48 PS), 1972年12月 " ,  
 SD4000; シバウラトラクタSD4000 (40 PS), 1979年2月 " ,  
 SE7340T; " SE7340T (73 PS), 1982年2月 " ,  
 TL1900; キセキトラクタ TL1900 (19 PS), 1980年11月 " ,  
 10HT; コマツバックホー10HT (50 PS), 1980年2月 " .

注) \*; 修理, \*; 車検, 特定自主検査

# 果 樹 研 究 室

## 1. 昨年度の収支実績

第1表 収入実績

作物名	生産量(kg)	収入(千円)
早生温州	13,013	1,064
巨峰	634	374
マスカットベリーA	1,774	437
ウメ	228	84
ナシ	92.5	15
リンゴ	87	14
合計		1,988

第2表 支出実績

費目	支出額(千円)
肥料費	153
農業薬剤費	489
光熱動力費	421
諸材料費	416
賃借料費	5
建物設備費	0
農機具費	219
雇用費	2,097
合計	3,800

## 2. 生産概況

- 1) カンキツ：早生温州は完伐を完了し、減収となったが、連年結果性が高まったために減収幅は比較的少なかった。

第3表 最近5ケ年間の早生温州の収量と品質

年度	生産量(kg)	収量(kg/10a)	糖度(Brix)	酸(%)	果実の大きさ別収量(%)				
					3L	2L	L	M	S
57	14,799	1,233	10.9	1.02	15	19	25	30	23
58	21,787	1,816	9.9	0.80	1	5	21	36	11
59	10,824	902	10.4	0.67	12	27	26	24	37
60	21,409	1,784	10.4	0.68	12	24	31	25	8
61	13,218	1,102	10.9	0.65	3	16	34	30	15

- 2) ブドウ：巨峰は樹勢が強過ぎて、無核果が多くなりやや低収、マスカット、ベリーAは平年作、なお、ネオマスカットと品種保存を中止し、ベリーAに改植した。

第4表 最近5ヶ年間のブドウの収量と品質

年度	品 種	生産量 (kg)	収 量 (kg/10a)	糖 度 (Brix)	備 考
57	巨 峰	1,011	1,011	17.8	
	マスカットベリー-A	2,450	1,884	17.0	
	ネオマスカット	496	400	16.5	
	アレキサンドリア	71	710	18.6	
58	巨 峰	1,236	1,236	18.3	
	マスカットベリー-A	1,584	1,218	17.2	果実生理障害
	ネオマスカット	3	25	16.4	〃
	アレキサンドリア	102	1,020	18.2	
59	巨 峰	762	762	17.5	気象生理障害
	マスカットベリー-A	1,266	974	17.0	果実生理障害
	ネオマスカット	50	400	13.5	〃
	アレキサンドリア	133	1,330	16.5	
60	巨 峰	468	468	17.8	気象生理障害
	マスカットベリー-A	1,572	1,209	17.5	台 風 害
	ネオマスカット	452	376	17.2	〃
	アレキサンドリア	31	310	17.8	台風害・虫害
61	巨 峰	634	634	17.5	気象生理障害
	マスカットベリー-A	1,592	1,447	17.4	

3) ウメは平年作, ナシ・リンゴは少量ではあるが出荷可能になった。

4) その他核果類等品種保存樹は試験研究に供試した。

### 3. 作業実績

第5表 作業実績

内 容	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
通常勤務	65.4	66.8	61	66.3	58.5	62.5	67	60	60.5	65	66	70.9	769.9
超過勤務	7.6	10.8	11.6	8	7.4	6.8	7.5	11.2	6.5	10	17.8	14.3	119.5
教官補助	2.4	1.3	1.3	0.3	1	3	3	1	0.5	5	5	4.5	28.3
臨時雇用	30	48	60	60	32	30	32	57	51	51	54	55	560
計	105.4	126.9	133.9	134.6	98.9	102.3	109.5	129.2	118.5	131	142.8	144.7	1,477.7
(種別)													
みかん	8.8	4.6	5.8	42.5	10.2	5.2	16.8	89.5	47	8	4	29.5	271.9
ブドウ	19.5	35.4	74.5	37.8	20.6	45.5	10.6	5.2	8.6	51	17.4	19.4	345.5
品種保存	35.4	35.3	23.3	19.2	21.8	18	19.6	8.8	21.4	31.5	92	57	383.3
共通	36	43.5	22.4	22.4	34	24.1	42.4	18.3	28.3	19	15.8	21.4	327.6
その他	5.7	8.1	7.9	12.7	12.3	9.5	20.1	7.4	13.2	21.5	13.6	17.4	149.4

単位；時間

### 4. 主要購入機器

なし

## 施設園芸研究室

### 1. 昨年度の収支実績

#### 1) 収入の部

##### (1) 生産物収入

第1表 作物別収入

作物	目標額	実績
キュウリ(春)	390,000円	380,844円
"    (秋)	400,000	151,082
メロン(春)	720,000	745,000
"    (秋)	560,000	229,400
セルリー	200,000	385,951
その他	—	41,442
小計	2,270,000	1,933,719
<hr/>		
シクラメン	400,000	367,110
鉢物	150,000	206,350
小計	550,000	573,460
<hr/>		
合計	2,820,000	2,507,179

昭和61年度生産収入の目標額は当初2,820,000円を見込んだが、実績は2,507,179円にとどまり、約30万円と目標額を大幅に下回った。

作物別に見ると、キュウリは昭和60年の秋作から英国系温室キュウリKUDグリーンを採用しているが、中長果であることから市場において珍らしがられ、まずまずの人気を得ているようだ。収入目標は春作ではほぼ達成できたが、秋作はダニ、スリップスの被害により目標の半分以下の15万1千円にとどまった。

次に、メロンでもキュウリの場合同様、春作は目標額を2万5千円上回ったが、秋作では目標の約40%の低い額にとどまった。

キュウリ、メロンと対照的にセルリーでは例年に比べ、収穫を遅くすることにより株の肥大が進み、収入が倍増した。

花卉では、シクラメンが目標の約10%減、鉢物は5万円増で、トータルでは2万円増となった。



(2) 貸鉢による移算

昭和60年度同様、学内各部署より予算の移算を受けた。その金額は1,650,000円である。

第2表 貸鉢数と移算額

部 署	大 鉢		中 鉢		小 鉢	
	鉢数	金額	鉢数	金額	鉢数	金額
本 部	84	126,000円	360	360,000円	516	258,000円
工 学 部	48	72,000	12	12,000	24	12,000
理 学 部	—	—	36	36,000	48	24,000
農 学 部	36	54,000	108	108,000	156	78,000
演 習 林	12	18,000	24	24,000	36	18,000
医 学 部	12	18,000	24	24,000	24	12,000
病 院	24	36,000	84	84,000	60	30,000
薬 学 部	—	—	12	12,000	12	6,000
文 学 部	—	—	24	24,000	—	—
法 学 部	—	—	36	36,000	36	18,000
経 済 学 部	—	—	24	24,000	24	12,000
教 育 学 部	—	—	36	36,000	—	—
電 算 機 セ ン タ ー	—	—	36	36,000	36	18,000
中 央 図 書	—	—	12	12,000	24	12,000
小 計	216	324,000	828	828,000	996	498,000
合 計						1,650,000

2) 支出の部

第3表 支出実績

費 目	金 額	割 合
種 苗 費	449,195円	10.6%
肥 料 費	118,860	2.8
農 薬 費	223,040	5.3
光 熱 燃 料 費	216,000	5.1
諸 材 料 費	921,586	21.8
賃 貸 料 費	73,749	1.7
農 機 具 費	358,225	8.5
雇 用 費	1,603,600	37.9
そ の 他	268,545	6.3
計	4,232,800	100.0

支出の総額は4,232,800円で昨年度の約20%増であった。その中で、雇用費は全体の37.9%で最も高く、次に材料費の21.8%、種苗費の10.6%の順に低くなり、これら上位3費目で全体の約70%を占めた。

## 2. 生産概要

### 1) キュウリ

春作は予想収量を上回ったが、秋作は約500kg下回った。減収の原因はまず第1にダニ、スリップスの被害、第2に連作による Mg の欠乏が考えられる。

### 2) メロン

春作は50個、秋作は約200個、予想を下回ったが、第1表の収入では春の場合目標額を上回っており、秋の場合は多少品質的に問題があったが、600個収穫できたことはでき過ぎと言うべきであろう。

### 3) セルリー

実績は予想収量の約50%増と順調であった。

### 4) シクラメン

販売鉢数は予想の約30%増であったが、ダニの被害が目立ち、例年のものに比べて数段劣った。

第4表 作物別生産量

作物	予 想	実 績
キュウリ(春)	3,000 kg	3,246 kg
〃 (秋)	2,000 "	1,563 "
メロン(春)	900 個	850 個
〃 (秋)	800 "	607 "
セルリー	2,000 kg	2,990 kg
シクラメン	500 鉢	684 鉢
鉢物	500 "	470 "

## 3. 作業実績

全作業中に占める割合の高いものは、まずその他が第1位で29.9%、2位鉢物18.8%、3位キュウリ14.6%、4位メロン11.0%であった。以上の4作目が10%以上を要してしており、その他が第1位であることは、この作業内容を詳細に吟味する必要がある。

第5表 作業実績

作業	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
キュウリ	15	26	28	12	19	18	21	10	3	4	4	14	174
メロン	11.5	20.5	5	25.5	26.5	9.5	15	1	—	—	4	12	130.5
セルリー	4	—	—	—	1	3.5	3	6	7	4	4	20	52.5
シクラメン	8	6	5	4	5	8	8	7	10	5	8	8	82
鉢物	16	17.5	21	22	20.5	18	20	18	18	18	18	17	224
その他花卉	7	6	6	7	6	4	4	4	6	6	4	7	67
学生実習	18	7	5	7.5	1	1	5	10	—	—	7	10	71.5
研修	3	2	2	2	2	2	6	2	2	3	3	3	32
その他	31	18	28.5	33	19	27.5	28	28.5	48	41.5	27	25	355
合計	113.5	103	100.5	113	100	91.5	110	86.5	94	81.5	79	116	1,188.5
職員 3名	63	58.5	66	69	64.5	60	66	57	57	57	60	66	744
雇用・超勤	50.5	44.5	34.5	44	35.5	31.5	44	29.5	37	24.5	19	50	444.5

単位；日

# 畜 産 研 究 室

## 1. 昨年度の収支実績

### 1) 収 入

函詰牛乳が1,084万，酸乳飲料が46万，バターが3万円となり，牛乳での収入が全収入の77%であった。その他，肉牛および廃牛による収入が335万円であり，全収入は第1表に示すとおり1,473万円となった。60年度と比較し，約235万円多く，59年度と同程度であった。

第1表 収 入 実 績

品 目	生産量	金額(千円)
函 詰 牛 乳	57.076 函	10,844
乳 酸 飲 料	2,728 函	464
バ タ ー	130 個	31
卵	148 kg	16
肉 用 牛	7 頭	3,112
廃 牛	1 頭	242
山 羊	2 頭	16
計		14,725

第2表 支 出 実 績

費 目	金額(千円)
種 苗 費	304
肥 料 費	999
農 業 薬 剤 費	
光 熱 動 力 費	603
諸 材 料 費	1,785
賃借料及料金(機受)	
飼 料 費	2,523
獣医及薬品費	112
建物及土地料	
農 機 具 費	749
教 官 研 究 費	1,028
そ の 他 (備品等別予算)	1,623
計	9,726

### 2) 支 出

飼料価格が低く安定したため，支出全体は60年度とはほぼ同様であった（第2表）。

## 2. 生 産 概 況

### 1) 牛 乳

第3表に示すとおり、58年度以後減少していた乳量が回復し、年間61,322kgになった。しかし第4表に示すように、乳牛の分娩間隔はかなり長いので、このことが改良されれば、乳量はまだ増加すると考えられる。さらに年度末には10才以上の乳牛は処分したため、次年度より平均乳量は増加するものとおもわれる。

第3表 年度別乳量

年度	57	58	59	60	61
乳量 (kg)	57,457	64,652	56,574	51,442	61,332

第4表 乳牛個別分娩間隔および乳量

乳牛名	生年月日	産次数	分娩月日	子の性	前回分娩	間隔(日)	年間乳量(kg)
アルベルモント メドレーク	56. 6. 28	2	61. 7. 30	雌	59. 4. 21	840	5468. 2
43リアリー メドレーク	56. 6. 16	2					6712. 8
スプリング ミソノ ジョイ	58, 8. 18	1					4274. 0
リアリー ミソノ メドレーク	58. 8. 25	1					4814. 6
アルベルモント R. ピラー	47. 11. 3	7	( 62. 1. 19 廃牛)				2420. 8
ロイブルック R. テキササル	58. 3. 26	2	62. 2. 16	雌	61. 1. 16	395	4178. 6
スプリング アイバンホー	57. 10. 12	2	61. 8. 9	雄	60. 7. 4	400	5056. 8
アルベルモント L. M.	59. 4. 21	1	61. 6. 15	雄			3929. 4
アルベルモント B. D. R.	53. 6. 30	5	61. 6. 29	雌	60. 8. 10	320	4155. 4
ロイブルック J. テキササル	52. 9. 12	5	( 61. 12. 4 廃牛)				1342. 6
アルベルモント B. D. F.	57. 7. 7	2					4935. 0
アルベルモント R. ベティー	57. 12. 29	1					5081. 4
リアリー R. コンフィダンス	54. 10. 8	5	61. 12. 31	雄	60. 9. 17	470	4505. 6
リアリー S リワード	58. 1. 20	2	62. 1. 11	雄	61. 1. 29	347	4456. 8

## 2) 肉牛

出荷した5頭のうちの2頭が1日増体量で1,000g以上となり、肥育方法の改善による結果であると考えられた(第5表)。しかしながら、まだかなり低いものもいるため、今後さらに改善する必要がある。

第5表 肉用牛の増体量

番 号	肥育日数	1日増体量(g)	肥 育 期 間	備 考
乳 牝 1	155	987	61. 4. 1(600)～ 9. 2(753)	出 荷
2	155	890	“ (494)～ “ (632)	“
3	305	1,177	4. 1(348)～62. 1.30(707)	“
4	305	1,066	“ (350)～ “ (657)	“
5	305	655	“ (400)～ “ (600)	“
6	365	824	4. 1(254)～62. 3.31(555)	
7	365	706	“ (242)～ “ (500)	
8	287	540	6.17(220)～ “ (375)	
9	287	606	“ (205)～ “ (379)	
10	287	787	“ (208)～ “ (434)	
11	181	569	9.30(267)～ “ (370)	
12	181	546	“ (235)～ “ (334)	
13	181	718	“ (207)～ “ (337)	
和 牝 1	155	581	4. 1(523)～ 9. 2(614)	出 荷
2	155	451	“ (490)～ “ (560)	“
3	365	630	4. 1(240)～62. 3.31(470)	
牝 1	365	495	“ (293)～ “ (474)	

### 3) 飼料作物

60年度は冬作物が例年より減少していたが、61年度は第6表に示すとおり、ライグラス135.0、エンバク40.2、カブ42.9tとなり、例年とはほぼ同程度となった。月別作物別収量は第7表に示すとおりである。また利用形態は第8表に示すとおり、青刈り170.2、サイレージ88.7、乾草で35.4tであった。

### 4) 堆厩肥

生厩肥生産量は第9表に示すとおり、131tであり、利用堆肥量は73t（厩肥量の約55%）であった。60年度はそれぞれ181t、139t（約76%）であった。この数値の違いは、厩肥から堆肥が出来上る場合、かなりの水分がうしなわれることと、利用堆肥の一部は前年度の厩肥であるため、さらに厩肥の一部は次年度に残るためである。

第6表 圃場別飼料作物別収量

圃場	ライグラス	エンバク	カブ	デントコーン	ソルゴー	竜北グラス	計
鶴見 1	4,050	8,380					12,430
2	37,400						37,400
3	60,190						60,190
4			15,740	2,670			18,410
新園 2							
4		12,000		22,550			34,550
7		8,000	17,330	4,700			30,030
桑園 1		7,910		12,000			19,910
実験 41			9,830				9,830
放牧 2	11,060				8,190		19,250
3	7,900				10,440		18,340
表 21	9,050					5,560	14,610
旧園	5,400				7,380		12,780
ボタ		3,910		2,710			6,620
計	135,050	40,200	42,900	44,630	26,010	5,560	294,350

単位；t

第7表 月別飼料作物収量

月	ライグラス	エンバク	カブ	デントコーン	ソルゴー	竜北グラス	計
61. 4	7,220		16,170				23,390
5	52,620		1,160				53,780
6	27,680	7,910					35,590
7	770			2,670		2,160	5,600
8	2,620			21,740	7,120		31,480
9	4,740				15,210	3,400	23,350
10					3,680		3,680
11				20,220			20,220
12	11,140	28,380					39,520
62. 1	6,560	3,910	2,730				13,200
2	12,120		10,310				22,430
3	9,580		12,530				22,110
計	135,050	40,200	42,900	44,630	26,010	5,560	294,350

単位；t

第8表 飼料作物別利用形態

飼料作物	青刈	サイレージ		乾草	計
		コンクリート	スチール		
ライグラス	99,650			35,400	135,050
カブ	42,900				42,900
デントコーン	2,670		41,960		44,630
ソルゴー	12,920	13,090			26,010
竜北グラス	5,560				5,560
エンバク	6,540	33,660			40,200
計	170,240	46,750	41,960	35,400	294,350

単位；t

第9表 厩肥生産および利用

年月	生産量	鶴見1	鶴見2	鶴見4	新園7	実41	表21	桑1	部長	その他	計
61. 4	13.9			7.0							7.0
5	8.5										—
6	8.3		7.0					7.0			14.0
7	9.0	1.5		5.5							7.0
8	6.0	7.7		5.6	1.0						14.3
9	5.6			4.2							4.2
10	5.2					2.0					2.0
11	11.7									14.0	14.0
12	16.5										—
62. 1	19.5										—
2	11.9						3.5	4.2	3.0		10.7
3	15.0										—
計	131.1	9.2	7.0	22.3	1.0	2.0	3.5	11.2	3.0	14.0	73.2

単位；t